

「宝さがし大冒険」 なおまさ 作

Chapter1. 宝島

とらのすけ
ぼくは虎之助。お金持ちだ。ある日、家に帰ったとき、宝の地図を見つけた。説明には、「この地図どおりに行けば、宝島につく」と書いてあった。

外に出て、船を買った。まちの人全員に、いつしよに来てくれるか聞いた。すると、全部で三十二人あつまった。友だちの忍者も呼んだ。名前はハットリだ。にんけん
忍犬の電太郎も来た。「光ばくだんのじゅつ」が、必殺わざだ。なかま
仲間は、三十三人と一ぴきになった。

船は、宝の地図どおりに進んだ。海のまんなかで、ライバルのかいぞくのザルドと、ザルドだいしゅうだんに会った。相手も同じ三十四人。ぼくが、けんをつかってザルドをたおしたので、三十三人は味方になつた。みかた

嵐にあつた。船がこわれはじめる。ガガガーン。船は、宝島のとなりの悪島あくしまへ行ってしまった。船はかんにこわれてしまい、みんなで力をあわせてほかの船をつくった。また船にのり、ぶじに宝島につく。

宝島にはジャングルがある。そのおくのおくに小さ

な家がある。どんどんいくと、人食ひとくい花の花畑がある。

人食しょうか花には消化えきがあつて、人をとかす。忍犬

電太郎が光のぼくだんを投げて人食花を半分やつけた。友だちの忍者ハットリが刀で人食花を切つてすすんでいった。

やつこのことで宝のある家までたどりついた。その家の中には、紙がはりつけられている。船長のぼくがみつけた。読んでみると、こんなことが書かれて

いた。「かぎをさがせ。かぎはこの島のずうつとまんなかにある。ヒントはふかくほれ。」

地図で真ん中をさがし、ピンでさしてそこへむかった。でもシャベルがなかった。船長のぼくは、小さくなつて持ち運べるシャベルを發明してポケットへ入れたことを思い出した。シャベルは百こあつた。そのうちの六十四こをつかつた。それでみんなでほつた。みんながつかれたところでかぎがみつかった。

また、宝の家にもどり、ドアをあけた。すると、宝の家の中には、その宝を守る人がふたりいた。ぼく虎之助と、友だちの忍者ハットリと、あいぼうの忍犬電太郎が、戦つた。ぼくは得意のけんぼうを使い、ハットリはしゅりけんで戦つた。電太郎はとくいわざのぼくだんを使つて

戦った。ほかのみんなは、シャベルでかぎを見つけるのにつかれていたから、休んでぼくたちを見ていた。そして、「がんばれ！」といった。ぼくたちが勝った。

とうとう宝箱を見つけた。そしてかぎであけた。あけたら、宝物といっしょにマップが入っていた。それは新しい宝を見つける地図だった。

そして次のぼうけんがはじまる。